

練馬区立開進第一中学校

開進一中だより

令和元年度 第9号 令和2年1月29日発行

共生・共助をめざすオリパライヤーに

校長 古山 真樹

2020年、いよいよオリンピック・パラリンピックイヤーのスタートです。日本にとって大きなそして記憶に残る1年となることでしょう。オリンピックでは33競技のトップアスリートたちが熱い戦いを繰り広げ、一生忘れない感激と感動を残してくれることでしょう。また、パラリンピックでは、様々なハンディを背負った人たちが、それを乗り越えて頑張る姿に心を熱くし、勇気をもらうことでしょう。改めてこれまでの苦労や不屈の精神も知る良い機会となることでしょう。

さて、君たちが生まれていない1964年の東京オリンピック、先生は小学校2年生でしたが、数々の感動の場面を記憶しています。しかしながら、パラリンピックの記憶は全くありません。そこでパラリンピックについて少し調べてみました。

パラリンピックの原点は、1948年のロンドンオリンピックに合わせてイギリスのストークマンデビル病院内で開催されたスポーツ競技会だそうです。第二次世界大戦で負傷した兵士のリハビリの一環としてスポーツを取り入れたことが始まりだそうです。やがて障害者が単なるリハビリからスポーツを楽しみ、競技スポーツに発展していきました。正式にパラリンピックとして開催されたのは1960年のローマ大会からだそうです。ですから東京オリンピックの時もパラリンピックは開催されたのですが、世間の関心も低く、テレビ放映もほとんどなかったようです。そのはずです。参加国は22、参加選手はわずかに375人だけの車いす競技会だったそうです。まだまだ障害者のスポーツは世界的認知が乏しかったようです。

さて、1964年のオリンピックは日本にとって高度経済成長の証として東海道新幹線や空港モノレールの開通、首都高速道路の大幅な拡張といった戦後復興の契機ともなり、先進国への仲間入りをアピールする大会でもありました。日本人が敗戦から自信を取り戻すための大きな意義もありました。今回はパラリンピックもきちんと位置づけられ、共生・共助社会の実現を目指すことが目標として掲げられています。残念ながら日本がまだまだ遅れている部分です。都市のバリアフリー化だけでなく、心のバリアフリーの浸透が求められます。また、スポーツは障害者の自立や社会参加を促す大きな力ともなります。人が誰も分け隔てなく個性、能力を発揮して活躍できる本当の意味でのバリアフリー社会を実現し、あらゆる多様性を尊重する社会を育てる契機になることを祈ります。即ち心の変革が求められる大会とも言えます。

改めて年頭に当たり、今年がオリンピック・パラリンピックを通して、愛と希望に満ち溢れた平和な年となることを願います。

今月の金言・名言

心は形を求め 形は心をすすめる

「妙法蓮華経」より

妙法蓮華経というお経の一節で、仏教の世界では深くその真意を追究している僧侶・学者さんたちがいるそうですが、私は単純にこの言葉どおりに考えます。そうすると、「心そのものは形がないので、形を必要とし、形は心を進行させる」となりますが、わかりにくいですね。もう少し考えると、「心が落ち着いていけばきちんとした形というものを求めるようになり、形を整えばさらに心も整い落ち着いていく」と捉えられます。心は所作や行動、姿・格好といった目に見えるものの形を整えることでさらに深まっていくものです。これこそが形や型の美しさを求める日本社会、日本文化の原点ではないでしょうか。

形は単なる「かっこつけ」とは違います。深く落ち着いた心そのものです。ですから日本の武道、柔道・剣道・弓道などは礼に始まり礼に終わります。茶道・華道なども同じです。礼はお互いを尊重する心の表れでもあり、礼そのものの形も大切にします。ですから日本では日頃のあいさつ、礼儀作法といったことも一つの形として重要視されているわけです。これは相手への敬意、人間関係を維持するための規範でもあります。

このように日本では古来から敬愛の気持ちを表すには一定の形が求められます。日常生活の中でもそうですが、最も典型的なものが卒業式です。卒業式は一人一人の所作、態度といった礼儀作法を大切にします。形を大切にすることで心が落ち着き、会場全体が厳粛な雰囲気になります。形を整えるということが日本人の心の底にある精神であり美意識なのです。二か月後、敬意のこもった卒業式にしていきたいと思います。

令和元年度 開進第一中学校
 道徳授業地区公開講座・講演会 1月11日(土)



街をつくることと未来創造

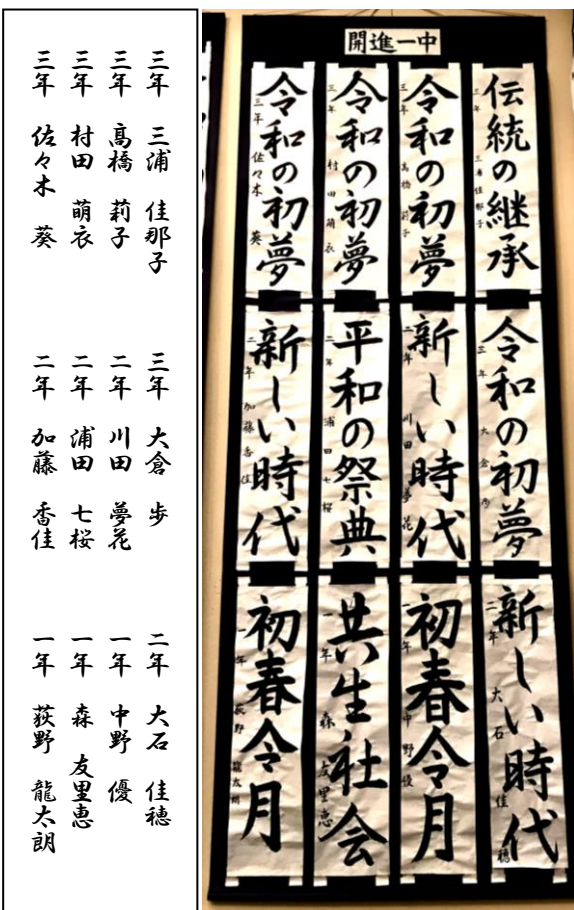
今年度は、三井不動産株式会社より橋本哲史様にお越しいただき「街をつくることと未来創造」をテーマにお話をいただきました。ご自身の体験をもとに、現在のお仕事に就かれるまでの経緯や、仕事をする上で大切にしていることなど、とても役立つ内容を分かりやすい言葉で伝えてくださいました。生徒の皆さんは、「自分の将来」を考える上で大いに参考になったことと思います。

第二部「懇談会」

第二部では、この度ご講演いただいた橋本哲史様を始め、フォーラム21の潮田邦夫様、サントリースピリッツ株式会社より村上悦郎様にご参加いただき、保護者の方との意見交換を行いました。保護者の方からは、「今回の講演が将来の仕事を選択する上でよいきっかけとなった」という感想や「将来の仕事をどう選択していけばよいか」などの質問がありました。それに対し「本人の考え次第でどのような仕事も『よい仕事』になる」、「勉強が将来どう役立つかをイメージさせることが大切」、「すべての仕事の基礎は中学での勉強が基盤となる」などのアドバイスをいただきました。短い時間でしたが、大変有意義な会となりました。



お礼の言葉を述べる2年生 飯田航輝くん



練馬区中学校連合書きぞめ展

三年 三浦 佳那子	三年 高橋 莉子	三年 村田 萌衣	三年 佐々木 葵
三年 大倉 歩	二年 川田 夢花	二年 浦田 七桜	二年 加藤 香佳
二年 大石 佳穂	一年 中野 優	一年 森 友里恵	一年 荻野 龍太郎

開進一中生の活躍

- ◆東京都読書感想文コンクール
【都佳作】 渡邊みちる (3年)
- ◆美術科「明るい選挙啓発ポスター」
【練馬区入選】
3年 新井 瑠夏 3年 高橋 礼那
3年 植栗 綾香 3年 大矢 北斗
- ◆バドミントン部
◇第21回東京都中学生冬季バドミントン大会
練馬区選考会
男子シングルス【第2位】 桃井亮磨 (1年)
女子シングルス【第3位】 堀 菜夏 (1年)
男子ダブルス【第5位】 桃井亮磨 (1年)
滝本凌真 (2年)
- ◆陸上部
◇東京都中学校ロードレース大会 (区部大会)
女子1年1kmの部【1位】 今 海晴
- ◆卓球部
◇練馬区新人大会男子団体【3位】
佐藤(2年)・中井(2年)・清水(2年)・谷(2年)
中村(1年)・池田(1年)・未木(1年)・小島(1年)